

令和8年
2026年

2月6日
金曜日

第11886号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



プリマハムが関西支店で新商品発表会が開催された……P6

- ▶ 1月豪州産対日輸出量、合計1万7968 tで7・2%減 …… P2
- ▶ [食肉流通C・食肉業界の販売動向] ②豚肉国産需給タイト、スペイン産停止影響大 …… P3
- ▶ 福留ハムが本社および研究開発センターを移転、3月2日から業務開始 …… P3
- ▶ MLAがSMTS出展、豪州輸出業者7社がオーゾー・ビーフ&ラムPR …… P3
- ▶ 伊藤ハム米久HDの第3四半期決算は食肉事業が好調で増収増益 …… P4
- ▶ 丸大食品の第3四半期決算は各事業で利益増 …… P4～5
- ▶ 丸大食品が特別利益の計上および業績予想の修正を発表 …… P5
- ▶ 米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止 …… P5
- ▶ プリマハムが関西支店で新商品発表会を開催 …… P6
- ▶ スターゼンG春夏新商品提案会④、国産豚肉新概念「元気のぼとん」 …… P6～7
- ▶ エバラ2026年春夏新商品発表会、12品が新たにラインアップ …… P8
- ▶ 全肉連の生産連携事業、「しまね和牛」を消費地である神戸で販売 …… P8～9
- ▶ [輸入牛現物相場] CF共に価格はもちあい、もしくはやや上昇 …… P9
- ▶ 【ブロイラー市中現物相場】輸入物国内在庫の逼迫続く …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 5日P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 5日P11

注目のヘッドライン

1月豪州産対日輸出量、合計1万7968 tで7・2%減

豪州農水林業省が公表した1月の豪州の食肉輸出量によると、食肉の総計は14万1296t(前年同月比3・9%増)と増加した。

…詳細はP2

伊藤ハム米久HDの第3四半期決算は食肉事業が好調で増収増益

…詳細はP4

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎(03)3919-2929 FAX(03)3919-2930
総務 / ☎(03)3919-2980 FAX(03)3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

1月豪州産対日輸出量、合計1万7968 tで7・2%減

豪州農水林業省が公表した1月の豪州の食肉輸出量によると、食肉の総計は14万1296t(前年同月比3・9%増)と増加した。

畜種別にみると、牛肉は8万4343t(11・6%増)、豚肉は2556t(9・1%減)、内臓類は1万5383t(17・

8%増)と増加したが、マトンは1万2364t(26・9%減)、ラムは2万3267(7・6%減)と減少した。

対日輸出量(船積数量)は1万7968t(7・2%減)で、このうち牛肉は1万4563t(10・8%減)、マトンは470t(23・0%増)、ラムは751t(17・1%減)、内臓

類は2074t(20・3%増)と増加した。

牛肉の輸出数量を州別にみると、クイーンズランド州は3万3863t(6・0%増)、ビクトリア州は2万1879t(27・5%増)、ニューサウスウェールズ州は1万7543t(8・4%増)といずれも増加。

このうち日本向けは、クイーンズランド州が8354t(8・6%減)、ニューサウスウェールズ州が2005t(17・0%減)、ビクトリア州も2859t(19・1%減)で前年割れとなった。

豪州の対日輸出数量(2026年1月)

(単位:トン、船積重量)

	日本向け計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	14,563	2,005	2,859	8,354	315	731	299
(前年同月比)	89.2	83.0	80.9	91.4	49.7	324.9	77.7
マトン	470	228	106	0	0	137	0
(前年同月比)	123.0	200.0	179.7	-	0.0	66.5	-
ラム	751	173	351	3	209	14	1
(前年同月比)	82.9	80.1	66.7	37.5	159.5	58.3	-
豚肉	0	0	0	0	0	0	0
(前年同月比)	-	-	-	-	-	-	-
内臓類	2,074	446	658	718	64	111	72
(前年同月比)	120.3	110.4	181.8	93.5	130.6	132.1	126.3
その他・計	17,968	2,851	4,061	9,098	588	993	372
(前年同月比)	92.8	90.5	90.1	91.8	72.0	184.2	84.0

豪州の食肉輸出数量(2026年1月)

(単位:トン、船積重量)

	豪州総計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	84,343	17,543	21,879	33,863	4,606	3,512	2,866
(前年同月比)	111.6	108.4	127.5	106.0	134.6	118.1	73.4
マトン	12,364	3,918	5,656	0	400	1,828	539
(前年同月比)	73.1	72.5	78.9	0.0	46.3	61.8	160.9
ラム	23,267	5,940	11,705	3	3,016	2,163	441
(前年同月比)	92.4	106.1	94.5	0.8	87.1	71.1	146.0
豚肉	2,556	453	402	195	405	1,096	0
(前年同月比)	90.9	73.3	85.0	72.2	93.1	107.9	-
内臓類	15,383	3,604	4,256	5,219	925	1,011	362
(前年同月比)	117.8	126.5	124.8	114.3	95.1	115.3	95.0
その他・計	141,296	32,590	45,252	39,952	9,539	9,728	4,208
(前年同月比)	103.9	103.7	108.9	105.1	104.2	89.4	85.5

2026年1月の船積み数量(2月2日時点)

(単位:トン)

主な輸出先国	牛肉	うちチルド	マトン	ラム	山羊	豚肉	内臓類	合計
日本	14,563	5,300	470	751	111	0	2,074	17,968
(前年同月比)	89.2	80.2	123.0	82.9	411.1	-	120.3	92.8
韓国	13,100	1,803	128	1,635	351	34	1,595	16,843
(前年同月比)	112.1	79.2	48.5	152.7	101.4	242.9	82.0	109.9
台湾	1,541	492	108	178	118	0	157	2,102
(前年同月比)	86.5	112.1	34.5	104.7	76.1	-	87.7	80.9
米国・東部	19,860	5,975	397	4,869	1,125	0	1,448	27,699
(前年同月比)	117.3	103.0	25.4	101.1	87.4	-	190.8	109.3
米国・西部	3,886	807	69	1,040	124	0	104	5,166
(前年同月比)	114.8	246.8	17.2	123.5	248.0	-	53.6	106.1
E U	1,462	1,335	349	1,957	156	0	39	3,962
(前年同月比)	188.2	180.4	107.4	155.2	-	-	156.0	165.9
その他・計	84,343	21,473	12,364	23,267	3,440	2,556	15,383	141,296
(前年同月比)	111.6	98.1	73.1	92.4	142.2	90.9	117.8	103.9

資料: 豪州農水林業省

【食肉流通C・食肉業界の販売動向】②豚肉 国産需給タイト、スペイン産停止影響大

豚肉の販売については、国産豚肉の枝肉相場は年末に低下したが、それまでは高い水準で推移した。この期間中の国産豚肉の需給はタイトな状況が続き、荷の引き合いは強かったという報告が多くあった。以前は荷動きの鈍かったロースを含め全ての部位で動きはよく、特にバラの引き合いは強く高い販売価格となったとの報告がなされた。

輸入豚肉では、11月下旬に、スペインで野生猪にアフリカ豚熱の発生が確認されたことから、同国産豚肉が輸入停止となった。スペイン産豚肉は、直近ではわが国の冷凍豚肉の輸入量で約3割と大きなシェアを持ち、加工向けのバラやカタロースなどが多く輸入されていた。さらにハム・ベーコン類では、日本にとって最大の輸入国であり、特に輸入生ハムで大きなシェアがあったことから、輸入停止のニュースは関係業界に激震となって走った。現在、食肉事業者は、その対応に追われている。

〈食肉事業者の主な声〉国産豚肉は動きが悪い部

位はなく、苦勞していたロースも引き合いがあり、他社の投げ売りもみられなかった。バラは販売価格が高くなったにもかかわらず引きが強く、カタロースも不足していた▷去年は、国産豚肉の荷動きが良かった。輸入豚バラが国産と価格帯が変わらないようになっていることから、国産バラにシフトしている▷国産を中心に卸しているが、得意先からスペイン産豚肉も合わせて求められ、他社から調達して卸していた。現在、調達先から、新規の代替国がまだみつからないといわれている▷スペイン産の代替豚肉がないかという問い合わせがすごい数となっている。当社では輸入豚肉の在庫をある程度持つてはいるが、今までの得意先を優先し、新規のお客はお断りしている。また、これを機会に鶏肉の引き合いも強くなっている▷生ハムはスペイン産のシェアが高く、関係飲食店の影響は大きい。国産で代替を検討するが、品質が異なるため業務向けの代替にはなりそうもない。(大手加工メーカー) (連載続く)

福留ハムが本社および研究開発センターを移転、3月2日から業務開始

福留ハムは本社および研究開発センターを移転している。

移転先 〒731-0213、広島市安佐北区三入南1-7-20 (現同社広島工場内) ▷移転部門 社長室、総務人事部、経理部、情報システム部、検査部、営業推進部、開発部

移転先 〒733-831、広島市西区扇2-1-10

(現同社広島支店内) ▷移転部門 輸入ミート部、外食課

業務開始日 3月2日。2月から部署ごとに順次移動を行い、業務開始日から全部署共に移転先で業務を開始する。移転する全ての部署で電話・FAX番号の変更はない。

MLA が SMTS 出展、豪州輸出業者 7 社がオージー・ビーフ & ラム PR

MLA (ミートアンドライブストックオーストラリア) は2月18~20日に千葉市の幕張メッセで開催される「スーパーマーケット・トレードショー2026」に出展する。オージー・ビーフ&ラムのブースでは、豪州輸出業者7社が一堂に会し、各社の特性ある商品の展示および商談を行う。また、MLAブース内では、今後

のプロモーションの案内を予定している。輸出業者7社は次のとおり。

Teys Australia▷Minerva Foods▷Fletcher International Exports▷Hewitt▷Kilcoy Global Foods▷Stockyard▷Midfield International

伊藤ハム米久 HD の第3四半期決算は食肉事業が好調で増収増益

伊藤ハム米久ホールディングスは5日、2026年3月期第3四半期連結業績を発表した。これによると、第3四半期累計売上高は8200億1600万円(前年同期比8・1%増)、営業利益217億9200万円(26・9%増)、経常利益233億6300万円(29・8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益159億8100万円(30・3%増)で増収増益だった。

セグメント別の概況は次の通り。

[加工食品事業] ハム・ソーセージは、家庭用主力商品のブランド力強化と市場シェアの拡大を図り、調理加工食品は、消費者ニーズの多様化に対応した商品群の販売に努めたが、消費者需要の低迷を受けて販売数量が減少したことから、事業売上高は減少した。商品新陳代謝の推進やコスト削減などに取り組んだが、原材料費および物流単価の上昇の影響等により、経常利益は減少した。以上の結果、加工食品事業の累計売上高は3097億1700万円(0・3%

減)、経常利益は81億8600万円(6・9%減)となった。

[食肉事業] 国内事業は、国産鶏肉の相場上昇による生産事業の収益性改善に加え、国産豚肉のリスク管理強化による採算性改善などが、物流単価上昇の影響等をカバーしたことから、事業売上高、経常利益共に増加した。海外事業は、アンズコフーズ社において、決算期変更の影響に加え、北米向け牛肉販売および欧州向け羊肉販売の収益性が改善したことから、事業売上高、経常利益共に増加した。以上の結果、食肉事業の累計売上高は5102億8800万円(14・0%増)、経常利益は162億2200万円(60・7%増)となった。

通期の連結業績は売上高1兆500億円(6・2%増)、275億円(40・5%増)、経常利益285億円(37・3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益185億円(41・2%増)を見込んでいる。

丸大食品の第3四半期決算は各事業で利益増

丸大食品は5日、2026年3月期第3四半期連結業績を発表した。これによると、売上高は1836億4300万円(前年同期比1・0%増)、営業利益68億700万円(34・1%増)、経常利益70億9300万円(31・4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益50億6500万円(11・9%減)となった。

セグメント別の概況は次の通り。

[加工食品事業] ハム・ソーセージ部門では、発売30周年を迎えた「燻製屋」シリーズでパッケージデザインの変更や、「レモン&パセリ」の通年商品化、新フレーバー「ブラックペッパー」を投入した。また、学校給食をテーマとした映画とのタイアップ企画を実施するなど多角的なプロモーション施策を展開したことから、売上高は堅調に推移した。2月にイタリアで開催されるミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックに向けて、「燻製屋」シリーズなどをはじめとする限定デザインの「TEAM JAPANミラノ・コルティナ2026公式ライセンス商品」を発売し販促活動を実施するなど、売場の活性化を図り積極的な拡販に努めた。

(丸大食品は、「TEAM JAPANオフィシャルサポーター〈ハム・ソーセージ〉」を務めている。)また、環境に配慮したパッケージ資材を使用したロースハムなどの「たっぷり使える」シリーズや徳用タイプのウインナー、手軽で割安感のある「フィッシュソーセージ」の売上拡大に注力した。外食向け業務用商品は、業態ごとのニーズを捉えた商品提案などを実施し販路拡大に努めた。調理加工食品部門では、「ビストロ倶楽部濃厚カレー」の拡販、「スンドゥブ」シリーズの新商品追加や販促施策を図ったが、競争環境の激化などからレトルトカレー商品やスープ類全体の売上高は伸び悩んだ。一方、チキン総菜は、健康志向の高まりから消費者ニーズに対応した「サラダチキン」の売上高が堅調に推移した。また、デザート類は、量販店向け「SWEET CAFÉ」シリーズの販売促進強化や、業務用ホイップ済みクリームの販路拡大に努めた他、コンビニエンス・ストア向け飲料類・ヨーグルト類の新商品投入を図ったことなどから売上高は伸長した。以上の結果、加工食品事業の売上

高は1239億5400万円(1・8%増)となった。原材料価格の高騰や人件費、物流費などのコスト上昇の影響があったが、各部門の増収や価格改定の実施、継続的なコスト削減の効果などから、セグメント利益は61億4400万円(34・7%増)となった。

[食肉事業] 牛肉については、国産牛肉は外食産業向けの販売が堅調に推移したが、量販店向けの販売が減少したことから、売上高は前年並みとなった。輸入牛肉は豪州産ブランド牛肉の販売拡大に取り組んだが、高騰する米国産牛肉の販売が伸び悩み、売上高は前年を下回った。豚肉については、ブランド豚

肉の販売を強化した他、外食産業向けの販路拡大に努めたが、量販店向けの販売は価格競争激化の影響などから売上高が低調に推移し、豚肉全体の売上高は前年を下回った。以上の結果、食肉事業の売上高は595億8300万円(0・6%減)となった。セグメント利益は、採算管理を徹底したことなどから、6億3400万円(32・3%増)となった。

通期の連結業績は売上高2380億円(1・3%増)、営業利益70億円(28・0%増)、経常利益74億円(22・2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益90億円(64・0%増)を見込んでいる。

丸大食品が特別利益の計上および業績予想の修正を発表

丸大食品は、5日開催の取締役会において、同社が保有する投資有価証券の一部を売却することを決議し、2026年3月期通期連結決算において特別利益(投資有価証券売却益)を計上する見込みとなった。これに伴い、2025年11月10日に公表した26年3月期通期連結業績予想を次の通り修正した。

[特別利益(投資有価証券売却益)の計上] 売却の理由 政策保有株式の縮減、資本効率の向上及び財務体質の強化を図るため▷売却の内容 ①売却資産の種類 同社保有上場有価証券の一部(13銘柄) ②売却の時期 2026年2月から3月(予定) ③売却益 約46億円(見込み)▷今後の見通し 上記の投資有価証券売却益は26年3月期通期連結決算に特別利益として計上する予定。投資有価証券売却益が確定し、適時開示の必要が生じた場合には、速やかに公表する。なお、上記の投資有価証券の売却益は、26年1月末時点の当該有価証券の株価等から算出した見込額であり、今後の株価推移、経済情勢および市場動向等による不確実性を含んでおり、実際の売却価格・利益は変動する可能性がある。

[業績予想の修正(2026年3月期連結業績予想

数値の修正)] 売上高2380億円(前回発表2380億円)、営業利益70億円(70億円)、経常利益74億円(74億円)、親会社株主に帰属する当期純利益90億円(55億円)

[修正の理由] 親会社株主に帰属する当期純利益については、前述のとおり同社が保有する投資有価証券の一部売却により特別利益(投資有価証券売却益)の計上が見込まれることから、前回の公表予想を上回る見込み。なお、今回の業績予想の修正に伴う配当予想の修正はないが、同社は従来より中長期的な企業価値の向上と株主還元の実現を重要な経営課題と認識しており、総還元性向30%以上の維持を目標としている。今後の業績動向や財務状況等を総合的に勘案しつつ、追加的な株主還元施策について適切に検討していく。今後、具体的に開示可能な内容が確定し、適時開示の必要が生じた場合には、速やかに公表する。前述の業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において同社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により予想数値と異なる可能性がある。

米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止

農水省動物検疫所は4日、米国テキサス州の家禽飼養施設で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されていたことから、同州全域から輸出される生き

た家禽、家禽肉等の輸入を一時停止したと発表した(輸入停止措置日=2025年11月15日)

プリマハムが関西支店で新商品発表会を開催

プリマハムは4日、1月26日に東京で行った新商品発表会に続き、大阪市西淀川区の関西支店で新商品発表会見を行った。会見には日野和昭執行役員営業本部西日本支社長(上写真)、片桐修二執行役員マーケティング本部長、岡島周市マーケティング本部商品企画部長らが出席した。

冒頭、日野執行役員が西日本の状況について説明した。内容は次の通り。

中元、歳暮共にギフトは苦戦をしている。ただ、通常のハム、ウイナーなどは堅調に販売できており、12月単月の販売数量は前年同期比105%、4月からの累計では104%で推移している。一方で売価が上昇しにくいのが引き続き課題となっている。価格面以外に着目すると、消費者に対するキャンペーンを複数展開しており、東京ディズニーランドのチケットプレゼントは広く認知いただいているが、関西エリアでは宝塚歌劇の貸し切り鑑賞チケットのプレゼントなども実施し、高年齢のユーザー獲得を図っている。また、京都で10月にオープンした屋内アートミュージアム「チームラボ バイオヴォルテックス 京都」に協賛し、ご招待キャンペーンを実施する予定だ。さらに、プロ野球の阪神タイガースにも協賛し、冠試合の開催も予定。ぜひ当社商品を購入いただき、子供から大人までファンを拡大できればと思っている。例年と比較して特徴的な新商品が多く、これを店頭販売い



ただくことで関西エリアでのシェア拡大に努めていきたい。

会見では東京での発表会と同じく、片桐執行役員が新商品の方針、岡島部長が新商品36品とリニューアル商品15品、合計51品の詳細を紹介した。

スターゼン G 春夏新商品提案会④、国産豚肉新概念「元気のぼとん」

スターゼングループが開催した2026年春夏新商品提案会において、河原鉄矢営業本部食肉販売統括部国産ポーク部販売グループリーダー(写真)が国産豚肉の新たなブランドコンセプトである「元気のぼとん」の取り組みについて、次の通り説明した。

2024年6月に国産豚肉プロジェクトチームを立ち上げ、国産豚肉の市場性について考察した。国産豚肉の主な価値基準といえば、おいしさ、価格、安全性であり、当社もこれを追求しているが、競合他社も同様であり、市場において差別化が難しくなっている。そこで既存の価値に加えて、新たな価値をもって消

費者のニーズに応えることで、お客さまにより多くの“いただきます”と“ありがとう”を届けられるのではないかと、いうところから、マーケティング、ブランディングの



考えを持って潜在的なニーズを探索。その結果、食を通じて“健康”になりたいという方々のニーズに可能

性があるのではないかと考え、国産銘柄豚肉「こだわりポーク」に注目した。

こだわりポークの特長としてアピールしているビタミンB1の豊富さ、麦類配合飼料の給餌、移動の少ない生産体制、これらは本当にお客さまにとって価値として認識されているのか、特長として訴求している価値とお客さまが感じる価値が違うのではというところから、改めて消費者目線を意識して徹底的に分析。こだわりポークの価値を伝えていくため、お客さまにとっての価値を再定義した。

それが「多様な食生活を支え、心も体も幸せになる、まるわかり品質の国産豚肉」。心も体も幸せになりたい、充足させたいという消費者の期待に対して、当社の生産から販売までのサプライチェーン、そしてお客さまの健康や食生活を支え、そこに必要な情報を届けたいというわれわれの意思、これをもって農場から食卓までをつないで、こだわりポークの価値を届けたい。そういう意味を込めてこのように言語化した。

こうした価値をどのようにお客様に届けるか。現状とのギャップもみえてきたため、まずはわれわれが何を伝えたいかではなく、消費者は何を知りたいのかを意識して、こだわりポークの販促表現を見直した。具体的にはまず社内外に向けてより消費者に寄り添った販促表現を公募。1817件の応募の中からキャッチコピーとコンセプトを選定。キャッチコピーは「ココロとカラダに元気をつなぐ!」、コンセプト名は「元気のぼとん」とした。選定のポイントは主に身体の疲労回復だけでなく、心の充足(多幸福感)が表現されている、名前から商品の意図が伝わりやすく、当社の経営理念へリンク。健康投資市場に対して、「健康プラス心の充足」で応えられる国産豚肉として位置付けた。

新たなキャッチコピーとコンセプトが決定したことで、ブランドコンセプト(ストーリー)、販促シール、POPなども見直し、より消費者に響く訴求表現にした。店頭で直感的に健康、心と身体の満足、元気が伝わるように温かみと信頼性のあるデザインに統一した。



また、今回見直した訴求表現を用いて実際の小売店舗、外食店舗でテスト販売を実施。新たなコンセプトとキャッチコピーを用いたPOP、ラベルを使用してこだわりポークをすでに取り扱っている店舗、取り引きはあるものの、こだわりポークの扱いはない店舗、外食店舗でのテストを実施し、訴求内容への関心やコンセプトへの共感などの反応を検証した。既存取扱店でのアンケート結果をみると、こだわりポークについて一定の認知度を獲得していることが分かった一方、

ビタミンB1が豊富に含まれていることを認知している顧客はほぼおらず、特長が価値として伝わっていないことが改めて分かった。また、健康への意識や「元気のぼとん」コンセプトへの共感を得られたため、今回の取り組みの必要性がみえる結果となった。

外食店舗との取り組みでは、店舗担当者との入念な打ち合わせで「元気のぼとん」の企画・コンセプトを共有し、ディナー構成の採用が決定。当初は11月限定だったが、ランチ・単品メニューへ拡大し、その後も採用を継続していただいております。当初の予想を上回る良い反応を得られた。

テスト販売の反応をまとめると、既存の取扱店舗ではコンセプトで共感が得られ、先方から逆にPOPの提案もあるくらいの熱量だった。また、健康に関心があるお客さまはみえてきたが、銘柄豚の購買につながっていない、健康からの想起につながっていないことを改めて知ることができた。未導入先へのアプローチでは、特に肉質の評価が高く、今後の取り扱いに前向きな店舗もあった。外食店舗では企画・コンセプトに共感いただき、取扱メニューの拡大・採用継続につながった。

今後はお客さま目線をより意識して訴求文言・販促物をブラッシュアップし、「元気のぼとん」コンセプトの共感・拡大に向けて、社内外で浸透活動に努めていく。また、今回の取組内容を基に提案方法を標準化し、売れる仕組みづくりを展開していきたい。(連載続く)

エバラ 2026 年春夏新商品発表会、12 品が新たにラインアップ

エバラ食品工業は5日、2026年春夏の新商品12品、リニューアル品4品の発表会と試食会を開催した。

冒頭、商品開発部商品開発一課の榊田恵理子課長(写真中央)が「2026年度の外部環境予測を踏まえ、引き続き消費者の意識は物価高騰や円安、節約思考へと向かうと予測される。しかし一方で、ウェルビーイングといわれて久しいように、『心の豊かさ』を求める傾向が高まっているのも事実だ。そういった市場・社会変化と食トレンド動向を敏感に捉え、『消費者が実感できる付加価値の提供と独自性の追求』そして『外部環境や消費者ニーズを捉えた機動的な対応』をテーマに据え、戦略骨子に『焼き肉のタレの間口拡大』『中華カテゴリーのさらなるアイテム充実』『プチっとうどんシリーズの販売拡大』を立て、多様化するニーズへの対応による“新たな価値の創造”を目指していく」とあいさつ。

商品ラインアップは「黄金の味」シリーズから「黄金の味 焼肉たれポン酢」(税込み524円)が新発売。同商品はりんご、桃、梅を使用したフルーツベースに、かんきつさわやかな味わいを加えた新しいおいしさが楽しめる焼き肉のタレ。同シリーズの特長である果実のコクと香味野菜のうまみに、ゆずとかぼすのかんきつ果汁がさわやかな風味を引き立て、さらに醸造酢のキレのある酸味を効かせることで、コクとすっきり感を同時に味わえる仕上がりとなっている。さっぱりとした味わいなので、さまざまなシーンで汎用性があり、牛肉、豚肉、鶏肉などの焼き肉はもちろん、妙めものや煮物にも手軽に使い、さっぱりとした味わいと、コクを増すことができる万能調味料としても幅広い提案を打ち出している。

また、焼き肉のおいしさへの没入感とその余韻を楽しむことができる焼き肉のタレ「焼肉堪能」シリーズと



して「焼肉堪能 甘旨醤油味(225g)」「同 炙り醤油味(225g)」「同 焙煎にんにく(230g)」「同 香味塩だれ(215g)」(全て270円)の4商品を新発売。同シリーズは、強い風味立ちによる焼き肉のおいしさへの没入感と長引く後味で、その余韻を楽しむことができる焼き肉のタレを目指した商品。同社は近年、没入型のサービスが注目されている中、食に対する価値観においても「おいしさ」だけでなく、「体験そのもの」を楽しむ時代へと広がりを見せていることを受け、五感で楽しみ、より深い満足感を得ることができる没入体験を創造するため、同シリーズを開発した。焼き肉専門店の直火で焼いたような香ばしさと、後味の余韻に包まれるひとときを家庭で堪能できる商品となっている。

そのほか、「プチっとうどん」シリーズに「プチっとうどんたらこクリームうどん」、また、東海・北陸エリア限定品として「プチっとうどんプラス 具入り台湾まぜそば」(共に275円)が追加された他、「プチっとうどん中華」シリーズから「プチっとうどん 麻婆茄子」「プチっとうどん 麻婆豆腐 甘口」「プチっとうどん 麻婆豆腐 辛口」(全て275円)の新発売と、それに伴い同シリーズ「回鍋肉」「青椒肉絲」「麻婆豆腐 中辛」のパッケージリニューアルも発表された。

全肉連の生産連携事業、「しまね和牛」を消費地である神戸で販売

令和7年度食肉流通経営体質強化促進事業(生産者等との連携推進事業)第5回島根県開催枝肉販売会が5日、神戸市西区の榊本神戸肉森谷商店セ

ンターで開催された。主催は全国食肉事業協同組合連合会、島根県食肉事業協同組合連合会。協賛が島根県農業協同組合。

島根県の主要ブランド和牛であるしまね和牛を、関西圏で拡販する事業として永年取り組まれている。全国的にも和牛の脂質に対する評価が高まる中で、脂肪酸含有量の検査に早くから取り組んでいるしまね和牛。同販売会でもモノ不飽和脂肪酸、オレイン

酸含有量の測定値を表示して販売している。

今回は雌5頭、去勢14頭の計19頭が出品され、出品された牛の格付はA5等級が11頭、A4が5頭、A3が3頭だった。ちぎり方式で販売され、兵庫県内で営業を行う事業者などによって瞬く間に完売した。

【輸入牛現物相場】CF共に価格はもちあい、もしくはやや上昇

豪州産チルドは先週と大きな変動はない。2月には祝日の絡む連休がある他、1月末までの寒さが和らぎつつあるので、外食需要なども期待される。しかしながら、相場高によって引き合いは落ちているため、連休間際まで荷動きは感じられないのではないかと。

方、ロインなどの高級部位は買い付けを抑えている影響から、市中在庫の量が限られており、状況次第では不足する可能性もある。

フローズンは引き続き豪州産でひき材需要はあるが、こちらも相場が上がりすぎたために荷動きは重い。聞き取りの中では西日本よりも東日本の方が50～100円程度安かったが、これは在庫の量による差であると考えられる。

【輸入牛肉現物相場】

円/キロ

		グラス	ショートグレイ
豪州産	トップサイド	1,480 ~ 1,530	1,550 ~ 1,600
	シックフランク	1,400 ~ 1,450	1,480 ~ 1,530
	アウトサイド	1,400 ~ 1,450	1,450 ~ 1,500
	ポイント	1,380 ~ 1,430	1,450 ~ 1,500
	ナーベル	1,100 ~ 1,200	1,250 ~ 1,300
	ランプ	1,650 ~ 1,700	1,750 ~ 1,850
	クロッド	1,350 ~ 1,400	1,450 ~ 1,500
	チャックロール	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,850
	チャックテンダー	1,450 ~ 1,500	1,550 ~ 1,650
	キューブロール	3,400 ~ 3,700	4,000 ~ 4,500
C	ストリップロイン	2,600 ~ 2,700	2,700 ~ 2,800
	テンダーロイン	4,200 ~ 4,500	4,700 ~ 5,000
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,400 ~ 1,500	-
	ナーベル	1,050 ~ 1,220	-
	カウミート	1,150 ~ 1,300	-
F	トップサイド	1,400 ~ 1,450	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,700 ~ 1,800	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,150 ~ 1,280	1,100 ~ 1,150
	ボンレスショートトリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,000	-
	ボンインショートトリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	2,700 ~ 2,850	2,250 ~ 2,350
	ストリップロイン(チョイス)	4,300 ~ 4,800	-
	リブアイロール(リップオン)	5,200 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,700 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
産	チャックアイロール(チョイス)	2,400 ~ 2,700	2,000 ~ 2,300
	同(プライム)	2,600 ~ 2,900	-

【ブロイラー市中現物相場】輸入物国内在庫の逼迫続く

◇国産物 生鮮モモは鍋用途での需要が高いこと、寒波の影響から生産がやや下振れしていることから、物量的にややタイトで、日経荷重の東京相場が840円前後の高値が続いている。冷凍モモは輸入物の高騰もあり、引き合いが強まり値を上げた。

◇輸入物 1月中の輸入量が少なかったことから、国内在庫は逼迫感が増した。ブラジル産、タイ産、モモ正肉、カット物とも値を上げた。2月の輸入量は前年をやや

上回る見込みだが、需要期でもあり、相場を押し下げるには至らないものと考えられる。

単位:円/キロ

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	680~710
ムネ正肉(〃)	410~490
手羽モト(〃)	300~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	玉なし
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	520~540
ブラジル産モモ正肉	700~720
ブラジル産モモ角切り	730~750
ブラジル産皮なしモモ正肉	660中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	700~720
タイ産モモ角切り(25~30g)	730~750
米国産モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 2月5日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1		
和牛	雌 A	高値	3,190	2,322	2,266	-	-	
		安値	2,217	2,213	2,240	-	-	
		平均	2,504	2,269	2,250	-	-	
		90頭	77	9	4	-	-	
		頭数						
	雌 B	高値	-	-	-	-	-	
		安値	-	-	-	-	-	
		平均	-	-	-	-	-	
	-頭	頭数	-	-	-	-	-	
	去 A	高値	3,114	2,380	2,220	-	-	
		安値	2,175	2,212	2,162	-	-	
		平均	2,497	2,308	2,182	1,979	-	
155頭		131	20	3	1	-		
頭数								
去 B	高値	-	-	-	-	-		
	安値	-	-	-	-	-		
	平均	-	-	-	-	-		
-頭	頭数	-	-	-	-	-		
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-		
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-		
	去 B -頭	平均	-	-	-	-		
	去 C -頭	平均	-	-	-	-		
交雑牛	雌 B	18頭	平均	-	1,663	1,610	1,584	-
		頭数	-	2	12	4	-	
	雌 C	3頭	平均	-	-	1,563	-	-
		頭数	-	-	3	-	-	
	去 B	23頭	平均	1,714	1,672	1,636	1,619	-
		頭数	1	7	10	5	-	
去 C	3頭	平均	1,590	-	1,597	1,584	-	
頭数	1	-	1	1	-			

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	394	1,133	-	(競り)	(相対)	
売買	393	985	146.0	-	-	77

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,473	1,753	1,706	1,623	-
	B	-	1,707	-	-	1,390
和 去	A	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,053	1,062
	C	-	-	-	-	1,022
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,696	1,601	1,436	-
	C	-	-	1,576	-	-
交 去	B	1,781	1,682	1,624	1,587	-
	C	-	-	-	1,463	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	758	758	953	899	821
	安値	599	563	523	400	238
	平均	664	588	566	542	417
	頭数	(5)	(345)	(408)	(116)	(111)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
搬入相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

[大阪食肉卸売市場] 2月5日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,460	2,157	1,935	-	-
(頭数)	(11)	(5)	(2)	(1)	(-)
B	-	1,999	-	-	-
(頭数)	(-)	(3)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,616	2,201	-	-	-
(頭数)	(17)	(3)	(-)	(-)	(-)
B	-	2,000	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(1)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,770	1,611	1,491	-
C	-	-	1,566	-	-
交雑去 B	-	1,768	1,603	1,565	-
C	-	-	1,559	-	-
豚	-	625	609	529	474

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	2月5日	2月4日	(2月累計)
豚	67,800	66,000	266,200
成牛計	3,970	4,430	17,340
和牛雌	970	1,260	4,340
和牛去勢	1,070	1,090	4,690
乳牛雌	850	740	2,720
乳牛去勢	350	400	1,730
交雑雌	380	450	1,930
交雑去	350	490	1,930

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 2月5日

東京	1,590 円	(前日 1,639 円)
大阪	1,561 円	(前日 1,559 円)

[豚・全農建値] 2月5日

上	中	取引頭数	市況
594 円	569 円	1,134 頭	急落

と畜	牛 108 頭	豚 121 頭	牛概況	もちあい
売買	牛 93 頭	豚 145 頭	豚概況	続伸

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 2月5日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	562 (562)	- (-)	5,978	-	もちあい
仙台 [中]	529 (-)	508 (445)	387	45	小反落
栃木 [地]	- (593)	564 (552)	1,675	71	上伸
茨城 [地]	597 (579)	569 (543)	1,408	813	続伸
群馬 [地]	563 (607)	538 (531)	2,031	1,628	小幅安
さいたま [中]	587 (592)	558 (582)	253	254	小幅続落
東京 [中]	588 (635)	566 (577)	1,133	985	急反落
横浜 [中]	609 (595)	583 (573)	660	660	続伸
山梨 [地]	650 (-)	612 (-)	202	183	反落
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	-
名古屋 [中]	606 (615)	603 (605)	1,000	326	弱もちあい
京都 [中]	597 (-)	569 (-)	73	90	もちあい
大阪 [中]	625 (586)	609 (559)	121	145	続伸
神戸 [中]	578 (-)	550 (-)	58	125	-
岡山 [地]	610 (600)	589 (583)	259	372	強気配
広島 [中]	- (558)	- (542)	395	43	-
福岡 [中]	583 (573)	551 (540)	549	149	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月29日～2月4日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,490,449 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,185	1,187	1,223	1,198	84,135
うで	680	713	787	726	114,871
ロース	1,036	1,091	1,182	1,093	149,947
ばら	1,171	1,237	1,274	1,232	154,905
もも	702	753	775	743	172,130
ヒレ	1,056	1,128	1,134	1,108	12,105
セット	907	1,024	1,041	994	802,356

◇近畿圏 総重量 791,177 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,112	1,274	1,372	1,264	58,476
うで	648	700	774	705	137,977
ロース	1,048	1,126	1,162	1,124	111,470
ばら	1,204	1,242	1,353	1,261	144,190
もも	664	703	788	712	179,268
ヒレ	1,080	1,185	1,283	1,178	11,304
セット	863	962	1,078	970	148,492

[食鳥正肉日経相場] 2月4日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

[農水省統計情報部食鳥市況] 2月3日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,039	754	550	600	650
安値	700	450	290	360	350
平均	843	539	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します